

～これから夏に向けてのウイルス感染症にご注意 (2)～

咽頭結膜熱、無菌性髄膜炎

6月14日に国立感染症研究所感染症疫学センターは、咽頭結膜熱の患者数が4週連続で増加し、過去10年の同じ週では2番目の水準であることから注意喚起を行いました。

今回の気になる話題では、前回に引き続き夏の感染症について紹介します。

咽頭結膜熱(プール熱)

アデノウイルスによる発熱、咽頭炎、眼症状を主なものとする小児の急性ウイルス性感染症です。例年、6月頃から徐々に増加しはじめ、7月から8月に流行のピークが見られます。多くはプールを介した発生で5歳以下の患者が約6割以上を占めています。

(症状)

夏かぜ疾患のひとつで、プールを介して流行することが多いので**プール熱**とも呼ばれています。38～40℃の高熱が4～7日程度続きます。喉が赤く腫れ4～5日間痛みます。咳が出て、扁桃腺炎を伴うことも多くなります。目が赤く充血し、痛み、目やにが出て目を開けているのがつらくなります。

(潜伏期間) 約1週間

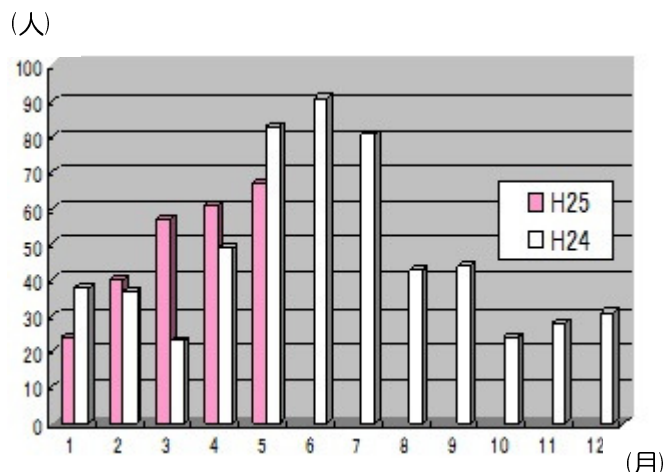
(原因ウイルス) アデノウイルス

(予防) 感染経路は接触感染や飛まつ感染です。タオルの貸し借りなどはやめましょう。



咽頭結膜熱患者発生状況 (図)

平成25年の県内35定点医療機関からの患者報告数では、1月が24名、2月が40名、3月が57名、4月が61名、5月が67名と増加傾向は明らかです。この傾向は例年の傾向から7月から8月まで継続すると考えられます。今年の患者は5歳以下が80%以上を占めています。



無菌性髄膜炎

(症状)

夏かぜ疾患の原因となるエンテロウイルスが主な原因となります。ウイルスが髄膜にまで達した時には髄膜炎を発症し入院を必要とします。主な症状は発熱、頭痛、嘔吐で首の後ろが硬くなり、首を曲げつらくなったりもします。現在のところ有効な薬が無く、対症療法が中心となります。

(原因ウイルス) エンテロウイルス